

# フィレンツェ大学

## 教育・言語・国際文化・文学・心理学部

小林玲子(フィレンツェ大学)

reiko.kobayashi@unifi.it

### 1. フィレンツェにおける日本語教育の歴史

大学レベルの高等教育機関で、イタリアで初めて日本語講座が創設されたのは、19世紀のフィレンツェである。1863年、フィレンツェ大学の前身である王立高等学院に東洋言語・文学講座が開かれ、アンテルモ・セヴェリーニ (Antelmo Severini) が日本語の教員となった。セヴェリーニは『竹取物語』などをイタリア語に翻訳して東洋学の発展と普及に貢献したが、この講座は長く続かなかつたと言われている。その後、しばらく空白期間が続いたが、1972年にアイヌ民族研究の草分け的存在として知られる人類学者フォスコ・マライーニ (Fosco Maraini) によって、フィレンツェ大学教育学部 (Facoltà di Magistero) に日本語・日本文学講座が復活した。同講座は1995年に文哲学部 (Facoltà di Lettere e Filosofia) に移動した。2013年には大学制度改革により従来の学部「Facoltà」が廃止され、研究・教育活動を行う組織は「Dipartimento」、教務を担当する組織は「Scuola」と呼ばれるようになった。この改革に伴い、日本語・日本文学に関連する科目は言語・文学・国際文化学部 (Dipartimento di Lingue, Letterature e Studi Interculturali) に位置づけられ、2019年の学部統合によって、教育・言語・国際文化・文学・心理学部 (Dipartimento di Formazione, Lingue, Intercultura, Letterature e Psicologia Dipartimento di Lingue - FORLILPSI) に編成された。

フィレンツェ大学では、セヴェリーニが日本語・文学講座を創設した時代以来、古典文学研究が盛んに行われてきた。『万葉集』、『古今和歌集』のイタリア語訳や『源氏物語』の研究などの業績を残した鷺山郁子教授が2023年に退官するまで、その研究の流れは継続していた。かつては教育者や研究者の育成を目的とした読み書き中心の日本語教育が行われていたが、近年は現代文学が専門の教員も加わり、現代日本語のコミュニケーション能力や表現能力を重視した日本語教育が行われるようになってきている。

Università degli Studi di Firenze, FORLILPSI Web サイト: <https://www.forlilpsi.unifi.it>

### 2. 日本語教育のカリキュラムと科目

正規課程の学生が日本語を学ぶことができるコースは、学士課程 (3年制) 外国語・文学・国際文化コースと修士課程 (2年制) アジアとアフリカの言語・文化コースである。学士課程のコースでは、二つの外国語と外国文学を専攻とするカリキュラムの中で、日本語を第一外国語あるいは第二外国語として履修する。修士課程では、日本語・日本文学を専攻することができる。

日本語教育に関連する科目の概要を以下にまとめる。(2025年9月現在)

	科目名	時間数/年	修了時のレベル (CEFR)	学生数
学士1年	日本語1	45	A1	59
	日本語1演習	70		
学士2年	日本語2	45	A2	43
	日本語2演習	70		
学士3年	日本語3	30	A2 / B1	33
	日本語3演習	40		
修士1年	日本語と日本文学1	60	B1	14
	日本語と日本文学1演習	40		
修士2年	日本語と日本文学2	60	B1 / B2	8
	日本語と日本文学2演習	40		

日本語演習の授業は、日本語母語話者講師によって行われている。日本語のほか、日本学関連の科目として、学士課程では「日本文学1」「日本文学2」が必修となっている。修士課程では「日本語文献学(古典日本語)」と「アジア・アフリカ言語翻訳演習」が必修、「東アジアの歴史と制度」「アジア・アフリカの美学」「文化人類学(日本と東アジアを含む)」が選択科目として学べる。

### 3. 教員の構成 (2025年9月現在)

日本語の授業を担当している教員は、助教授1名、研究員1名、非常勤講師1名(いずれもイタリア人)、日本語母語話者講師2名(うち1名は大学言語センターに所属)の計5名である。

### 4. 日本の大学との交流

日本の大学11校と交流協定を締結しており、学生および教員の交流が行われている。2025年には、本学部から合計9人の学生が半年間(前期あるいは後期)日本の大学に交換留学生として派遣されている。同年、日本の大学4校から合計4人の日本人留学生を本学部で受け入れている。また、2025年11月~12月に埼玉大学との国際協働教育セッション(COIL)を4回にわたって実施した。

### 参考文献

- 小川誉子美(2019)「日本語学習と社会背景—19世紀のフランスとイタリアの事例から—」『ヨーロッパ日本語教育: シンポジウム報告・発表論文集』24, 459-465
- ボナヴェントゥーラ・ルペルティ(2017)「<欧米の日本研究> 10 イタリアの日本研究: 文化の多様性を生かす」『世界の日本研究』2017, 112-127.
- 宮坂真紀(2025)「アンテルモ・セヴェリーニ訳 *Il Taketori Monogatari* から読み解く 19世紀イタリアの日本研究」『京都産業大学論集』第58号, 67-93.
- Dizionario Biografico degli Italiani - Volume 69 (2007)
- <[https://www.treccani.it/enciclopedia/fosco-maraini\\_\(Dizionario-Biografico\)/](https://www.treccani.it/enciclopedia/fosco-maraini_(Dizionario-Biografico)/)>